

第3回 橿原市総合政策審議会 議事録

日時：令和元年10月15日（火）

午後1時30分～4時

場所：大和信用金庫八木支店

3階 会議室1

<出席者>

- 委員：東委員、飯田委員、石川委員、尾田委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、土井委員、中澤委員、久委員、前川委員、牧野委員
- 市：岡崎副市長、吉本教育長、中西総務部長、福西総合政策部長、山風呂総合政策部部長心得
- 事務局：西村総合政策部副部長、中井企画政策課長、池田企画政策課長補佐、谷本統括調整員、友井係長、八田主査、杉本主査、中尾主事、大前主事

1 開会

2 議事

橿原市第4次総合計画 基本構想（案）について

（資料説明）

○久会長

いかがでしょうか。まずは順番に沿ってお話をさせていただければと思います。3ページ、将来ビジョンのキャッチフレーズは「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」というように一つにまとめていただきましたが、いかがでしょうか。何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

ご異議がないようでしたら、いったん、これで固定をさせていただいて、また全体を見通した中で、後ろの部分を受けるかたちも出てくるかも分かりませんが、取りあえず、この「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」ということで固定をさせていただければと思います。

続きまして5ページ、6ページ、特に6ページの右側、各政策にぶら下がっております文言、フレーズですね。このあたりで、全体の方向性でも結構ですし、それぞれのところの内容で、もう少しこういう文言をとか、あるいは、こういうフレーズでというのがござ

いましたら、どこからでも結構ですので、ご意見、ご質問をいただければと思います。

特に庁内の委員会の中では方向性が違う意見も出ておりますが、それに対しても何かご示唆いただけるようなご意見を賜ればありがたいところでございますが、いかがでしょうか。

○清水委員

この四つの案の中からという感じでもないのでしょうか。視点を申し上げてよろしいのでしょうか。

○久会長

はい、そうですね。四つに限らないという意見も結構かと思います。

○清水委員

この四つ、それぞれの柱を見たときに、簡単に言うとどういうことかというのが分かりやすい言葉が入っていた方がいいような気が致します。例えば、①の「ひとづくり（世代別）」のところだと「活力を生み」という言葉だから、いまひとつ分からないところがあるんですけど、3番目と4番目の案では活躍と書いてありますので、そういうふうな感じになったら分かりやすいのではないかという気が致します。

同じように、②だと健康とかも含めた「健やかに」という言葉が分かりやすいとか、3番目の柱は、ちょっと思いつかないんですけど、4番目だと「にぎわい」とか、全体の文章としては、もう少し長くなると思うんですけども、何か一言で、この部分は活躍だとか、健やかにとか、そういうのが分かるような言葉が入っているような案がいいのではないかという気が致します。

○久会長

ありがとうございます。今日はさまざまなご意見を賜りながら、事務局の方でまた庁内に持ち帰っていただいて、最終案をまた返していただくことになろうかと思っておりますので、取りまとめをするというよりも、さまざまなご意見を今日は賜ればと思っておりまして、どんどん出していただければと思います。

先ほどの清水委員のお話をお聞きしていて、たぶん、こういう点も分かりにくさを出しているのではないかなと私なりに解釈させていただきますと、「多世代が活力を生み」というのと「多世代の誰もが活躍し」。何が違うかということ、多世代の誰もが活躍するというのは、誰のことか主体がはっきりしているんですけども、多世代が活力を生みというのが誰のことを指しているのか、主語は何なのかということが、ちょっと分かりにくくなっているのではないかと思います。

そういう意味では、まちが主語なのか、人が主語なのか、いったい何が主語なのかとい

うのが、ちょっと分かりにくいというか。いろいろなタイプがあるなというふうに思いますので、そこら辺を統一するのが一番きれいなのですが、統一をしなくても、一つ一つがそうになっているという意味、説明が分かればいいかなと思いました。

あと、いかがでしょうか。それぞれ、興味、ご関心の分野の中で、こういうキーワード、こういう方向性を忘れないでほしいというようなご提言でも結構かと思います。

○前川委員

資料2-3の一覧表の中で、4の柱のところに「多様な人々により地域交流や国際交流が深まり、共生の意識が育まれています」という、目指す姿という文章があるんですけども、これは新たな取り組みの中で非常に新鮮で、重要になってくるのではないかと個人的に感じる部分があるので、こういったものも柱の中のどこかに入れていただくのはどうかかなと思います。

○久会長

1段上げてくださいということですね。他はいかがでしょう。今日は時間的にも余裕がございますので、飯田先生から順番に、ご感想でも結構ですのでマイクを回していただいて、一言ずつでもいただきたいと思います。

○飯田副会長

先ほどの会長のコメントが分かりやすいんですけど、いまここに出ている案で会長のコメントを考慮すると、選び方が難しくなるなと思って眺めていたんですけども。

先ほどの会長のコメントですと主語もはっきりした方がいいということで、例えば、人を主語にするのであれば、政策ナンバー1のところでは「活躍し」の3番。2のところでは「みんなが健やかに安心して暮らせるまち」、これも人が主語になって3番。ちょっと3番を飛ばして4番に行くと、同じトーンで考えると1番、「一人ひとりがつながり、魅力を共創するまち」になるのかなという感じで、そういう観点で3番を見ると、強いて言えば「安全で快適な生活が持続できるまち」なのかなと思って。

確かに、そこに住む人をイメージして主語をはっきり統一するようなかたちで、人を中心に見ていく政策ということでトーンをそろえようとする、そういう感じになるのかなという印象を持ちながら、ただ、そのお考えもあると思うんですけども、やっぱり政策ですから、トップの方から見て、まちをどうするというトーンもあるのかなというふうに、じゃあ、組み合わせを変えたらどうなるんだろうというのを、いま考えている途中です。

会長のご意見に沿って人を中心に考えていくと、この中からも選べるのですが、3番のところは少し選びにくいかもしれないなという印象を持っています。

○東委員

全般的に、人を主語にするキーワードの方がいいかなと思います。全体が人間中心にと
言われていますので、主語は人がいいかなと。

あと、委員会で意見も出てきたところでしょうけれども、将来ビジョンのところでは、
はじまり、未来、つながり、きらめくという言葉があって、これは全部にかかっているの
で、1から4までに、あらためて繰り返し入れる必要はないかなというところはあるかなと思
います。

ちょっと離れますが、5番のところの2番の文脈は結構いいかなと思っておりまし
て。いま世の中でも、どう市民と一緒に政策をつくるかという議論が出てきていますの
で、一緒につくっていくというようなかたちと、特にトラストの部分が世界中で言われて
いるので、信頼というキーワードはマストで入れておいた方がいいかなと思います。

○石川委員

全体的に四つの項目自体が、それぞれ似通った文言が並んでいるのかなと思います。大
きなベースの「はじまりから未来へ」というかたちの中で、五つのカテゴリーの中の柱を
選ぶということでしょうけれども、いま申し上げたように同じような言葉が事務局案とし
て並んでいると思いますけれども、なかなか選びにくいという印象があります。

最後の5番の政策の土台ですが、これはワークショップでも出たんですけども、やは
り市民協働のまちづくりという観点からは、市民が参加してつくるというスタンスが大事
ではなかろうかという意見がだいぶ出ていましたので、ここで言えば、2番の「市民とと
もに糧原をつくる信頼の行政運営」と。この辺が最適であるのかなと思います。

○尾田委員

将来ビジョンのフレーズは長くなって無理やりな感じがする。「はじまりから未来へ」と
いうフレーズを大事にしながら、無理に政策のフレーズを入れなくてもよいのではないかと
いうこと。

1番から5番までの間で、1番のひとづくり、各世代を対象にした方で、まず「多世代
が活力を生み、輝き続けるまち」、これはどういうふうに説明してよいのか、ちょっと考え
られないですが、4番目の「多世代の誰もが活躍できる、きらめくまち」、この考えは素晴
らしいと思っております。

4番のまちづくりのことで、「一人ひとりがつながり、魅力を共創するまち」、これも前
向きに考えて素晴らしいことだと思っております。

○桐山委員

私自身、総合計画の性質というのを、ある程度、分かっていたつもりなんですけど、この
庁内策定委員会で出てきた意見を読ませていただいて、総合計画というのは、行政の方が
糧原市民の幸福のためにいろんな施策をしていただく、よりどころになるのが総合政策な

のかなと、ぼやっと思っていたのですが。

意見の中で上から四つ目、総合計画は市民目線で作成するべきであるというふうに書かれてあるので、もちろん市民のための総合計画なんですけど、作成するべきである、どうのかなと思いつながら、自分の中でなかなかまとまりませんが、フレーズは、やっぱり分かりやすくシンプルなものの方がいいのかなと思いました。

○小西委員

事務局案を見させてもらっているわけですけども、第1から第5までの件で、私は福祉関係の方から、こちらに参加させていただいておりますので、きらめく、つながり、未来に、はじまりというふうなことで1から4までがあるわけですけども、福祉から言えば、いろいろ行政の方からもいただいているわけですけども、2025年には認知症の方々が400万とか500万人になるという話も聞いておりますし、そのことについて、まだ書き加えていただくのが足りないのかなと思ったりもします。

今日もテレビの報道で、待機児童の関係でも業者が参入されるという話も出ておりました。全国で何十カ所つくるといふような話もされておりましたけれども。以上で、またおい話をさせていただきたいと思えます。

○佐伯委員

こういうのを見るのは初めてなので、具体的な意見は難しいところがあるんですけども、保健とか医療の分野で、例えば予防対策を考えると、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチという考え方がございます。

ハイリスクアプローチというのは、血圧が高い人、コレステロール値が高い人といった、将来疾病になる可能性の高い人に何かをしていく。それに対してポピュレーションアプローチは、個人の特性にかかわらず、どんな人に対しても、ある一定の働き掛けをして病気を予防していこうという考え方になります。

①は、ひとつづくりで世代別、②は、ひとつづくりで全般ということで、①は、どちらかという対象を限定した政策で、特に人に対しての政策ですと。②は、そうではなくて、どんな人に対しても行う政策ですとというふうに読んだ場合に、①は、どうして世代というものに着目してつくったのかという視点が重要になってくると思うんです。

つまり①を、これは世代別を重視して政策をつくるということは、子どもに対しては教育を、高齢者に対しては疾病とか障害が出た人に対して的確な政策をしていくという観点での打ち出しで、反対に②の方は、障害がない人に対しても共通の政策についてが②番でうたわれるというふうなイメージで見るとは思いますが。

そのときには、やはり①で世代別を打ち出した理由というのが大事で、ここがアピールポイントになるべきかなあと思えます。例えば、ここが世代でなくて、病気であるか、健康であるかという人別にとりかかるといふのが入ってもおかしくないことでもありますし、男性・女性

というジェンダーを取り上げてもいいことですし、貧困とか裕福だとか、そういった所得の不公平さを、ここで言ってもいいわけですから。

その幾つかある選択肢の中から、ここに世代というものを打ち出しているという場合は、やはり、この①と②の内容は、そういったものを反映させていくものになるのかなというふうに感想を持ちました。

○久会長

ありがとうございます。先ほど、ご意見を賜りましたように、この柱の立て方にも何か、またご意見がございましたらいただければと思います。それでは清水委員、いただきましたけれども他にございましたら。

○清水委員

さっき、③のまちづくりのところは、人を中心に、ちょっと思いつかなかったんですけども、例えば「みんなが質の高い生活を楽しめるまち」とか、そういうかたちにすれば全体を、人がどういうふうなことになるのかということが通せるような気が致しましたので、それを補足させていただきます。

○久会長

ありがとうございます。土井委員、いかがでしょうか。

○土井委員

先ほど会長が言われたように、主語なり対象が何であるかというのは非常に大事なかなと思います。1については、ひとづくりということですので対象は人、人をどうしていくかというような表現になるのかなと。3、4についてはまちづくりですので、まちが、どんなふうになればいいのかという表現にするという感じで考えたらいいのかなと思いました。

3、4は非常に似通ってしまっていて、微妙に表現を変えているだけですので、全体的には3、4が分かりやすいとは思うんですけども、どこにでもあるような言葉といたしますか、どこにでも該当するような言葉ですので、もう一工夫が必要なのかなと。そういう意味では、1、2の方がいいのかなと思うんですけども、それで、まだちょっと、しっくりこないという感想を持っております。

○中澤委員

もう意見はいろいろ出ているんですけど、私も、ここは本当に分かりやすくするのが一番かなと思って、ずっと見ていると、だいたい3番、3番となってしまったんですけど、いま月並みというか、どこにでもあるような表現というのもありました。そう言われると、そのとおりなんですけど、一番分かりよいいのがあるのかなというふうに思っています。

それから政策の土台のところは、これも、もうご意見が出ていましたけど「市民とともに」という表現が非常にいいので2番が望ましいかなと考えています。

いまこれを考えているんですけど、ビジョンがあって、上からどんな政策が必要だという考え方なんですけど、実務を考えると、実際にそれぞれ、どんな施策といいますか、具体的な事業と言った方がいいのかも分からないけれども、それとの整合とか、これもご意見が出ていましたかね、既存の計画、いろいろ個別の計画をお持ちだと思っています。それが、どこに位置付けられるかというところで、そういうものとの整合も考える必要はあると思います。

いま、いったん、ある程度決めるにしても、最後に、もう一度、これも策定委員会の中に出ていました、最終の見せ方ですね。最後はどのようなかたちでまとめるのかということまでを踏まえて、いますぐに、これと決めてしまうのはどうかなあというふうに思ったりもしました。

○前川委員

先ほど言わせていただいた部分と、5ページにある政策の柱という、何々の何々なまちというふうに、最終的にくくっていくのであれば、ここを一つにする必要もないのかなと。幾つか項目的にあって、最終的に、それを何々のまちという政策の柱の言葉として一つにまとめてしまうというのでも、どうなのかなと思ったりしました。

○牧野委員

皆さん方のお話をいろいろ聞いたので、私のあれもないんですけども、最初、会長がおっしゃっていた、主体になるのが人ということで、その部分に関しては、まず異論がないところだと思います。

あと、先ほど、どなたかがおっしゃっていましたが、市民目線でというのなんですけど、基本的に、こう見ても、どう考えても、一般の市民が見て分かりづらいというのが、まず目につく。そこら辺のところを、分かりやすさというのを出してあげることによって市民目線というのは出てくるんじゃないかと。非常に、いかにもという文章が全部つながっているんで、らしさを出すために、もう少し分かりやすい文章で出した方がいいんじゃないのかなという部分と。

あくまでも、これは4本柱の政策の目標の部分なので、そういう部分では、ある程度、あいまいな、抽象的な部分でもいいのかなと思うんですけども、その中での分かりやすさというのは必要になってくると思いました。

それから、各カテゴリーの1番、2番は特に問題ないと思うんですけど、3番、4番のところ、ずっとお話に出ていると思うんですけども重複しているような感じなので、この政策目標のところ、主にハード、主にソフトと書いてあるんですけど、この辺をもう少し出してあげてもいいのかなという感じで見えています。

ただ、右の7ページにも書いてありますけど、最終的な落としどころによって、どういうふうを考えるのかによって、この辺の部分も変わってくるので、フレキシブルな考えで最終的なものを見た上で、その辺のところを決めていく柔軟性も必要なのかなと思いました。

○久会長

ありがとうございます。皆さんのさまざまなご意見を賜りました。多くが一致していたのが、5番のところの政策の土台では、2番の「市民とともに樫原をつくる信頼の行政」がいいのではないかというご意見が一番多かったと思います。

1から4は、どちらかというところと3か4かという下の方が、ご意見は多かったのかなと思いますけれども、なかなか、このあたりは決めきれないというか。先ほど、ご意見をいただいた中で言うと、1番、2番は、人がどうなっているか。3番、4番は、まちがどうなっているかという観点でまとめたらいかがでしょうかというご意見もありました。

前川委員から最初のところで意見をいただきましたのが、資料2-3にも目指す姿というのが、ずらっとあるわけですね。このあたりの全体像が一定、共有できていた方がいいのかなと思います。

まず、先ほどの将来ビジョンの「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」の次に、いま考えている五つの何々なまちというのが来て、その下に、また2-3のところの目指す姿がぶら下がってくるということなので、先ほどもご意見がありましたように、この目指す姿から、もう一度、この五つのまちというのを見通したときに、何か重要なキーワードが、ここに拾い上げられるのではないか。あるいは、この目指す姿を総合したときに、どんなまちの姿が見えてくるのか。

そういう、行ったり来たりという関係もあるのかなと思います。ここだけを取り上げても、なかなか見えてこない部分があるのかなというのを、皆さんのご意見をお聞きしながら思った次第でございます。

ひととおりの一言ずついただきましたけれども、何か他の委員のご指摘を受けて、もう少しこの点をとか、さらに付け加えたいというところがございましたら、いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

ちなみに、私が一緒に策定させていただいた中では、兵庫県尼崎市が同じように四つありたいまちというのを決めているので、またご参照いただければと思います。ぴったりフィットするかどうかは分かりませんが、尼崎の場合は、一つ目が「人が育ち、互いに支えあうまち」。2番目が「健康、安全・安心を実感できるまち」。3番目が「地域の資源を活かし、活力が生まれるまち」。「次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち」という書きぶりになっております。

実は尼崎の場合は、例えば「健康、安全・安心を実感できるまち」というのは、いわゆる健康づくりとか医療とか、そういう問題だけではなくてハードな部分も含めて、ハード

とソフトを合わせて、このまちが実現できるというように、いわゆるツリー構造にはなっていないんですね。そういう構成の仕方を尼崎はしております。

いろいろな考え方があるとは思いますが、必ずしも上から下へ、下から上へというようなツリー構造ではないような、複数が合わさって、四つ、五つのありたいまちが実現するという構図もあります。

そのあたりは、根本的な体系を崩してしまう話になるのかもしれませんが、政策の柱の中に一つ一つキャッチフレーズをぶら下げていくのか、あるいは、尼崎のように複数の柱を組み合わせて、また違うまちの姿を組み上げるのか、幾つかの方法論はあろうかと思えますので。無理やり、こうなさいということではありませんので、こういうやり方もありますよということのご参考に、お話をさせていただきました。

特に市民委員の皆さんには、これを基に10年間頑張って、10年後に、こういうまちにしたいなという、まちの姿が、この五つの言葉に出てくるはずですので、自分の10年後のまちの姿を実感していただいて、ちょっと違うとか、こういうキーワードが欲しいとか、そんな観点で、また見ていただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

3番と4番が、書き分けも少し工夫が必要だというご意見もありましたけれども、こういう観点を、ちょっとチェックで入れていただきたいのは、それぞれのキーワードだけを抜き出してみて、その内容を大切にしたい文章になっているかということを考えていただけたらと思います。

例えば3番で言うと、安全、快適、持続というのがありますね。4番目の3番で言うと、活力、にぎわい、魅力ですね。このように見ていただくと、それぞれの重要なキーワードが、それぞれのところに盛り込まれているのか、ちりばめられているのか。あるいは、他と比べて、どうその違いを出しているのかということが出てきます。

そこを、もう一度、それぞれ四つずつのフレーズの中からキーワードだけを取り出してみて、それぞれがどういう関係になっているのかということをチェックしていただくと、少し全体像が整理しやすくなりませんかということも、ポイントとしては申し上げておきたいと思います。

そういう意味で見ると、4番のところを例えに出しますけれども、1番だけに共創という言葉が入っていますね。この共創という言葉は、ここで取り上げるのか、あるいは、先ほど言いましたように、活力、にぎわい、魅力という三つのキーワードでいくのか。

たぶん、何をこだわっていらっしゃるのかというのがキーワードで分かると思いますので、そこで、また庁内議論で、それぞれの担当の方が、どういうキーワードを重視されるのかということで、ここをもう一回、フィードバックしていただければいいのかなと思います。

あと、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○清水委員

いまごろから言うのは申し訳ないんですけど、全体で何が入っているかを、ずっと見ていくと、地球環境とか循環型社会とか、そういうのを思わせるような言葉があまり出てこないという気がちょっと致しまして。

体系の中に入れにくいから、こうなってしまったのかもしれないですけど、ひょっとしたら、全体の心構えのようなところへ書けばいいのかもしれませんが、地球環境を大切にしていくとか、そういうのがどこかに、出来上がったら最終的には入っていた方がいいのではないかという気が致します。

○久会長

ありがとうございます。私も、いま環境・まちづくり系専攻というところで教えていますので、環境がどこに入るのかなというふうに思っていたんですけども、無理やり理解をすれば、3の3のところにあります持続という言葉に、いわゆる環境の側面は入っているのかなとは思いますが。

そのときに、これからも快適な生活が持続するのと、地球環境の問題を考えるのが、本当にうまく共生できるのかどうかというのを本来、考えていかないといけないし、快適ばかりを求めてしまうと、たぶん地球環境問題は解決できないということになりますので、そこら辺のバランス論みたいなものを、どう表現できるのかなというのは、ちょっと気掛かりなところではございます。

庁内の検討の中では、5ページにあります、色が塗られていない部分ですね。ここに各分野が入っているんですけども、先ほど佐伯委員からもご指摘があった、この組み合わせにもいろいろ、また考えるべき余地はあるのではないかということは、庁内では、これで固定されているのか、このあたりの出し入れというか移動というのは、まだ今後あると考えるといいのでしょうか。

○事務局

企画政策課の友井と申します。分野のカテゴリーの部分になるのですが、こちらの方も庁内の策定委員会でさまざまなご意見をいただきまして、こちらの方で、ある程度、枠組みをつくらせていただいた中で、これはここではないというようなことで、ご意見が出たところではありますので、今後、庁内にヒアリングもかけさせていただきまして、その中で、またつくり上げていきたいと考えております。

今回の総合計画のつくりとしましては、政策の中で一つの事務事業や施策につきましても複数、また今後も当然出てきますので、そのあたりは、社会情勢でありますとか、今後の情勢の変化に応じて柔軟に対応できるようなものにつくり上げていきたいとは考えております。

○久会長

ありがとうございます。なぜ確認させていただいたかという、そうであれば、先ほど佐伯委員の方からはご指摘いただきましたけれども、5ページの組み合わせというものに何かご意見がございましたら、お出しいただければ、また庁内にお持ち帰りいただけると思いますが。どうぞ。

○佐伯委員

先ほど会長の方から、尼崎の例のご案内があったかと思うんですけども、この四つの柱が一個一個の分野の政策のサマリーとするのか、それとも目標は、一つ一つの分野の政策から結果として出てくるビジョンというか目標ですね。それを、どちらの分野で割るのかという話でして。

例えば、上下水道の整備は胃がんの減少につながっているんですね。それは、目標としては胃がんの減少で、政策としては下水道普及率、あるいは上水道の普及率の上昇だったりする。あるいは、高齢者が趣味活動を盛んにすると認知症が減るんですね。では、その健康の目標と政策の、例えば趣味活動をする公民館の充実をするというのは健康政策ではなかったりする可能性もありますよね。

そうすると、このカテゴリーの四つと各政策が1対1対応しない事例が出てくる。目標は、個人レベルで健康な期間が長く過ごせる。社会としては集団レベルで、こういう人たちが多く存在する社会。まちとしては、こういうまち。

あるいは、国の中、世界の中で橿原市はこういうまちという目標とするとかいう、個人から集団レベルの目標を定めて、それに対応する施策は、またばらばらのものという次元で、こういうものをつくっていくのか、それとも、やはり各政策分野に対応する目標、テーマをつけて構成していくのかという。

尼崎の事例というのは、どちらかという、そこの1対1対応をさせないで、目標を、まずは独立して立てているような印象を持ったんですけど、いかがでしょうか。

○事務局

資料2-4、これは総合計画の冊子となりますが、策定のサンプルイメージとして書かせていただいています。そちらの右側、主な関連施策というところで、関連する施策はどういったものがあるのかというのを、ここでは施策の2、3、4というかたちで表現しております。

先ほど、友井の方からも説明しましたが、いまの第3次総合計画というのは結構、縦のヒエラルキーといいますか、固定で総合計画の体系が整っているんですけども、第4次については、やはり横断的な部分、この施策を実施することについて、他の関連する施策の、ここにも、こう影響を与えるといったことが想定されますので、市民の皆さんに見ていただく総合計画の冊子としては、このようなイメージを描いております。

ですので、いまは政策レベルでも関連する政策があるのではないかといたお話も、こ

の後、事務局から施策の話をさせていただくのですけれども、施策レベルでは、こういうふうな表記にしたいと考えております。

○久会長

先ほど桐山委員の方から、総合計画は市民目線で作成すべきというのはどうなのかというご意見があったんですけれども、そのお話を、少し違う言い方をすれば、市民の生活というのは、行政のさまざまな施策で支えられているわけですね。そうすると、先ほど佐伯委員からご指摘いただいたように、病気へ持っていかないようにするためには複数の施策が支えてくださっているわけですね。

そういう関係を考えるならば、まず市民の生活というものがあって、それを、どのような施策で支えていくのかという関係になってくると、先ほどからお話ししますように、いわゆるツリー構造にはなっていないんですね。一つの施策が二つ以上の何かにつながっている、生活につながっているということも考えられるわけですね。

そのような体系を、どのようにつくっていいのかというところで、尼崎は、かなりチャレンジをさせていただいたと思っています。実は、そのようなことをやっていくと、どうということになっていくかという、市役所内では使いづらい計画になっていくんですね。

市民から見たら分かりやすいんだけど、市役所からすると使いづらい。逆に、市役所が使いやすい体系にすると、今度は市民から見えにくいという関係になってきて、この点が非常に難しいんです。そこら辺を今回、橿原市の総合計画の中で、どこまでチャレンジできるのかというところで、おそらく決まってくる問題かなと思います。

私の経験上は、市民目線ということと、市役所が使いやすいというのは、必ずしも同じ方向を向いていないので、ここをまた庁内でも、どこまで新しいチャレンジができるのかということも含めてご検討いただいて、無理のない範囲で、またご提案いただければと思います。

体系政策の目標のところ、いかがでしょうか。どうぞ。

○飯田副会長

まだ、その資料の方に見込んではいないんですけれども、もう皆さんが資料2-2とか、2-3のことに少し触れながらコメントをされているので、2-2と2-3の位置付けを確認したいんですけど、これは、この後説明があると思うんですが、この政策の目標がなくても、施策の束であるとか具体的な施策名は、こういう方向で行くというのが、ほぼ決まっているという受け止め方でよろしいですか。

○事務局

現段階で暫定的に入れさせていただいていまして、今後、庁内の検討次第によっては、いま資料2-2では施策の束と表現していますが、その分野の項目や表現は若干変わる可

能性もありますし、施策名も変わる可能性はございます。今日、現時点での表記となっています。

○飯田副会長

そうですね。今後の、例えば世界遺産のことであるとか、そんなことも含めたときに、樫原では、やはり歴史ということ。資料2-2の4の12のところにある歴史というのは、やっぱり、まちにとっても市民にとっても重要な話だと思うんですけども、現状、そちらを重要だというふうに見てしまったときに、それを受けるようなフレーズは、どれになるのかなと。

下から見ていくと、その4の中の四つの案で、強いて言えば、魅力あるまちの中に歴史というものも含めるのかなというふうな考え方をしていくと、会長が言ったように、施策の方を、じっとにらんでしまうと、ものすごく上の方ができにくくなるので、2-2、2-3というのは、いまだどれぐらいの確度で決まっているのかというのを確認したいと。

たぶん、2-4があって、こういうふうなサンプルが出ているということは、ほぼ施策の束に1個を、この柱で、この方針で行こうということなんですね。

○事務局

現時点では。

○飯田副会長

分かりました。それも踏まえて考えます。ありがとうございます。

○東委員

できたら樫原市さんに、先ほど会長がおっしゃったとおりチャレンジしてほしいなというところがあるんですけど。これは自治体だけではなくて、他のところもそうなんですけど、ツリー構造にしていくと、各課、部局で、どんどんサイロ化していくというところもあって、またあらためて、それに横串を刺そうみたいな議論が、いろいろな自治体で、いま出てきているんですね。

その中で、最初から、ある程度、それぞれ相互関連するような政策体系にしておく方が、向こう10年を考えたら明らかに、そちらの方がいいでしょうということがございます。

あと、ちょっと言い忘れていたんですけど、1、2で世代別、全般というところに書いているんですけども、1は世代別でいいとは思いますが、全般を考えたときに、どういう視点が一つ必要かなと思って見たところ、ちょうど先週、ASEANのスマートシティのハイレベル会合とか、出ていたんですけど、世界中でコネクテッド・コミュニティズという言い方をしだしているんですね。

スマートシティという言葉もあるんですけど、どちらかというとコネクテッド・コミュ

ニティという言葉が結構強く出てきているというところもあって、人と人がつながるみたいな、枕詞で「つながり」と書いていますから、それを②側で読んだらどうだというのが一つ、いまのトレンドを見たら、そう読めるかなと思います。

もう一つ、先ほど歴史のお話がありましたので、それも全部、「持続できる」で読んだらどうかと。古代から。SDGsというのはそのまま、どう持続社会をつくっていくのかという話なので、樫原で言う持続というのは、そこからだというぐらいのストーリーはつくってしまってもいいのかなというところはございます。

○久会長

ありがとうございます。他は、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。このあたりは、また庁内でも議論いただきながら、またフィードバックしていただければと思います。

それでは、先ほどから議論になっております次のステップですね。第4次総合計画の基本計画策定ワークにつきまして説明をよろしくお願い致します。

樫原市第4次総合計画 基本計画策定ワークについて

(資料説明)

○久会長

それでは、まず資料2-2で施策の絵が、ずらずらと挙がっておりますけれども、このあたりがどうなのか、あるいは、ご質問でも結構です。いかがでしょうか。特にご関心、あるいはご専門のあたりをしっかりと見ていただいて、漏れがないのか、あるいは、このあたりは重複しているのではないか。そのあたりのご意見を賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

○東委員

抜けで言うと一つ、外国人労働者を含めたところに関しての記載がないかなと。結構いろいろな自治体が、いま外国人労働者の受け入れ施策に力を入れたりしますので、そのあたりは、どこかにかぶればいいのかというところは、まず気になった点です。

○久会長

多文化共生ですよ。そのあたりが見当たらないのかなということですね。

○佐伯委員

隙間の話になるんですけども、例えば健康日本21では、運動をする人を増やすように

しよう。そのときに、運動するべき人に、しましように働き掛けるのではなくて、行政は運動しやすい道を整備しましように言っていたりするわけです。

今回の資料2-2で言いますと、施策の束5、施策ナンバー9の健康づくりと、施策ナンバー18の道路・橋りょうの整備の両方にまたがる課題になるかと思います。その場合、これは政策名には入っているからいいと考えたらいいでしょうか。それとも、できたら目指す姿のところ、道路整備のところ、健康面の目指す姿を加えてもらった方がいいように思うんですけど、いかがでしょうか。

○前川委員

佐伯先生のご意見に賛成というか、生涯スポーツというくくりで、スポーツというくくりで身体活動をまとめてしまうと、ちょっと落とし穴があるのかなと。いわゆる生活全般の活動量を上げるという考え方が健康づくりの基盤にもなると位置付けると、スポーツという言葉ではくくれない部分があるのかなと。身体活動ということで、生活全般の中に活動量を増すという方向性が必要ではないかなと思います。

○久会長

ありがとうございます。いまのお二人のお話は、ちょっと違う見方をすれば、まちそのものが歩きたくなるまちになれば無理なく歩けるよねということだと思うんです。

英語では **walkable** といいますけど、そういうまちづくりというのは当然、都市整備の方にも要求されますので、そこをどのように。先ほど中井課長がおっしゃったように、施策の関連性で受けるのか、あるいは、もう少し、それを表に出すようなかたちにするのかということだと思うんですね。

私も前川委員と同じように、健康づくりとスポーツというのを、これはたぶん教育委員会と市長部局なので別々だと思うんですけど、本当は、これは一つに束ねた方が、市民からすると分かりやすいということになりますよね。そこら辺も、また考えていただければと思います。

他はいかがでしょうか。どうぞ。

○飯田副会長

抜けということではないんですが、私はベースが土木なので、土木の視点から見させていただくと、例えば8番の束の下の17、18のところ、交通環境の整備、道路・橋りょうの整備。その上の16に治水の推進。下の方へ行って計画的な施設管理。これが入っているように思うんですね。

足りないものをつくって、あるものを管理していこうということで、従来どおりのオーソドックスなものが書かれているんですが、それでも、ご存じのとおり、台風19号のような想定外が来ると、それでも駄目になると。

この台風19号のことが初めてかということ、西日本の大水害をはじめとして、そういうことが、ずっと連続しているんですね。ということは、やることは従来どおりでもいいと思うんですけども、おそらく、ここ数年、10年スパンぐらいで起こっている気象の変化も含めて、これからつくるもの、つくられているものはストックとして、もう一度管理するという視点が要るのではないかと。

だから、通常ですと耐用年数とか何かしらの評価の基準があって、それに適合しないと補修をしようということですが、情勢の変化に照らし合わせて、いまのものの自体の健全性をチェックするようなことが、ストック管理として、ひょっとしたら必要なかもしれない。これは書き下しにくいと思ったんですけども、19号のことを見ていて思いました。

ものすごく卑近な例でいくと、ストック管理というのは結構いろいろなところに使える話であって、これは道路管理側の話になりますけど、標識を必要なところに付けていく。事故が起これば警察の指導などもあってつくって行って、どんどん増えているんです。

明らかにひどいものは立て直しをするんですけども、財政が一定というか縮小傾向ですから、実は全国で見渡すと耐用年数を超えたようなものが山積みで、それが強風で、かなり倒れているというのが全国的に問題になっている。

だから、ストックとして管理をしてやらないと、これまでみたいに守っていくではなくて、不要になっているものがないかという観点でもストックを見て行って、不要なもの、これ以上維持できないものは撤去していくという視点も、これからの管理には必要だと思います。

そういう意味では、従来の柱の出し方だけですと撤去という言葉がなかなか出てこないと思うので、その辺も含めた管理ができる言葉として、私はストックという言葉を使っているんですけども。

個別の施策を横につなぐようなキーワードとして、もう少し考えたら、先ほど言われているような隙間の部分、どれだけ頑張っても倒れてしまうという、あれは、たぶん隙間になると思うんですけども、それはもう仕方がない。これまでのやり方と気象条件が合っていないので。

それを埋めるのは、やっぱり根本的な考え方の変更しかないと思うので、その辺も少し視野に入れて、もう5年後には、たぶん同じようなことが、また起こると思うので、そういうことも考えていただけるといいかなと、これを見ていて思いました。

○久会長

ありがとうございます。いまのお話をお聞きしていると、これを支えるような基本的な考え方とか姿勢みたいなものを、どこかできちんと書いて共有しておかないといけないのかなと思ったんですね。

○飯田副会長

何にならったかといえば、東委員が言われた、潮流も含めた近い時間帯で起こっている変化、ちょっと先の起こり得る変化までを見据えて、これを見ておかないと、どうやっても隙間は出てくるので、そういうことを意識して、もう少し考えていただくと充実したものになるのではないかなというふうに。東委員の後追いです。

○尾田委員

1番の子育て世代の働き方とシニア世代の間で、いま樫原市でも少子高齢化がどんどん進んでいるということで、0歳から7歳までの子どもが千人を割っているという状況です。われわれ団塊の世代、戦後生まれの人間が2千人になっているということで、ここで、もうちょっと隙間を考えていただきたいと思います。

それと、道路・交通のことですが、橋りょうのことで河川を加えてもらって。われわれのところでも一級河川の曾我川があります。そして枝から出ている河川が、いっぱいになったら逆流するという状態で、一つのまちが膝上まで来るということです。ちょっと降ったら。河川もまた入れていただきたいと思います。

○久会長

おそらく治水の中に、そのあたりは入っているのかなとは思いますが、私も気になっているのは、治水が災害対応から一つ特出しをされているんですけども、尾田委員がおっしゃったような状況で非常に喫緊の課題であるので、この治水を出しているのか、あるいは災害対応の一つとして収めてしまうのか。いろいろなやり方があるかと思うんですね。

そこも、またご検討いただければと思いますが、このあたりのレベルがそろっていないところもあって、非常に細かいところが一つの大きな施策になっているところもあるし、もう少し複数に分けた方がいいのがあるところもあるし。そのあたりの整合性です。ぶら下がっている事業が本当に、このあたりでパッケージとして同じぐらいの大きさになっているかどうか。そのあたりも点検の必要があるのかなと思いました。

○清水委員

すごいむちやを言うんですけど、交通環境と道路と公園を、思い切って健やかのところへ移してしまっただけという感じがします。やっぱりクロスの方の話なのかもしれません。

例えば、歩行者のための空間をつくるか、安心と言えば安心なんですけど、でも健康づくりということから考えても、お出掛けのしやすい歩行空間は、すごく大事だと思うので、移せるなら移してほしい。

移せないなら、そのクロスのことですね。交通のことだけではなくて健康づくりの意味でも道路づくりをやらないとあかんよ的なことが道路のところに書かれるようにしていた

できればという気が致します。

○久会長

ありがとうございます。このあたりは飯田委員がご専門ですけれども、どうしても道路というイメージは通行機能が表に立ってしまうんですけれども、清水委員がおっしゃったのは、いわゆる空間機能として道路も一つのオープンスペースではないかと捉えると、道路のオープンスペース面は公園・緑地と同じところ、通行面は道路交通のところに入っている。一つのを別々のところに振り分けていくという考え方もできるのではないかと、というご指摘だと思います。

河川整備もそうですね。治水を考えたら治水面になってきますけれども、河川もオープンスペースの一つですから、緑地のところで、どう受けていくかというところも考えられます。そういう意味では、一つの対象物を複数のところに投げ込んでいくというものもあるのではないかと、というご指摘かと思えます。

○小西委員

道路・交通で、一時期、樫原市も電柱地中化が話題に上がったのですが、その後、どうかたちで話題に上がってこないのかなと思っているんです。いまおっしゃったように、道幅が狭いと、やっぱり電柱があると余計いろいろ交通に対して、それから高齢者の方々が道端を歩いている、電柱のために外へ出てきて車に接触するとかいうことがありますので、その点もいかなものかなと思ったりするのですが。

○久会長

ちょっと違う言い方で見させていただくと、景観というのがないですよ。景観整備は、どこかに埋まっているのでしょうか。もう少し景観整備を表に出す。せっかく今井町の町並みもあるわけですから、そういう意味では景観というものを表に出していくというのの一つかなと思えますが。

○石川委員

施策ナンバー1番、資料2-4の市民の声の一番下に、お母さんが生き生きするまちというのがあります。この1番の中には、子どもを対象にした施策がほとんどかなと。学校も含めまして。ただ、お母さんが生き生きするような施策が必要であるということは、シングルマザーも含めて、お母さんが健全に働ける体制が市としては要るのではないかなというふうに。相談一つにしても。それが、この中には、ちょっと見受けられないのかなと思えます。

それとシニア世代というのがありますね。高齢者福祉の充実ということで。確かに、介護も含めて高齢者の福祉、あるいは生きがい対策もいいんですけども、終末期医療も、

あと亡くなるのを待つだけという方も、やはりおられると思うんです。

それを充実した期間にするようなとか、充実した生活、人生を送れるような施策も、市として要るのか、あるいは県がするのか、よく分からないですけども、そういう連携は、市はできるのではないかと思います。

これから、だんだん高齢化になって、亡くなっていく方がおられますので、病院の関係だけではなくて市も、やはり市民の話で関係することですから、そういうこともだんだん増えてくるのではないかと思います。

○久会長

おそらく5番目の健康・医療のところに、そのあたりは組み込まれてほしいなと思うんですけど、これから2025年問題が出てきたときに在宅医療の充実というのも出てきますので、必ずしも病院が受け入れるだけではない。さまざまな体制づくりが必要になってくるわけですね。そのあたりを5番で、どこまで市の役割として書いていただけるのかということもポイントかなと思います。

それと前半部分ですけども、私もまったく同じことを考えていまして、2番の子育て・働き世代が、ずばり言うと子どもを安心して育てられたら、それでいいじゃないかみたいな書きぶりになっているんですが、そうではなくて、この世代そのものが生き生きと輝くような支援が当然必要です。

特に最近子育てママさんたちのパワーが非常に強いんですね。自分たちで仕事を生み出す起業なんかもやられている方がどんどん増えていきますので、おそらく樫原市に限らず、この起業支援というのは、いままであまりやらなかったことなので、その起業支援を、どこで組み込んでいただけるのかということですね。

それから、シニア世代も同じように福祉の対象にしかなくなっていませんので、シニア世代のさらなる活躍を、ここへ書いておかないと、これは誤解を与えてしまうと思いますので、このパッケージングをどうするかというのは、ぜひとも充実させていただければうれしいと思います。

○桐山委員

施策ナンバー1で、施策の束のところを見たときに、生まれてから、ずっと生きていく、亡くなるまでというステージを見たときに、子ども世代というのは、いわゆる生まれてから教育を受けている間。狭い意味の教育ですけど。もう次に子育て・働き世代というのが来ています。

施策名を見ると、仮の施策名とのことですが、妊娠期から子育て期までの支援の充実ということで、そうしたら、子ども世代が終わって働き世代になって、妊娠期までの働き世代は、どこの施策に入るのかなというのが分からなかったのも、そこはどうかかなと思いました。

○久会長

ライフステージで、もう一度、さまざまな視点ができているかどうかというチェックをお願いしたいということですかね。あと、いかがでしょうか。

○飯田副会長

先ほどの会長のコメントですが、2025年問題を含めた在宅の話。あとは、いまのコメントにもあったように手厚いサポートで、財源自体は、消費税が上がりましたが税収はそれほど伸びないとなったときに、やはり国交省が言っているような、コンパクト・プラス・ネットワーク。

これは久先生の専門というか、都市計画の方の専門で言えば、べつに新しいことではなくて、もう何十年前から言われているようなことで。本市で立地適正化計画と公共交通網計画は、まだ立てられていないですよ。それは立てた方がいいのか、よく分からないんですけども。

現状、なかなか国交省が描いている絵のとおりにはできない都市もあると思うんですけども、その理念自体は、もう何十年前から都市計画の分野では言われていることから考えると、いま現状で起きている在宅ケアであったり、サポートを充実するという意味では、理念は、やっぱり取り込んで、今後のまちづくりに生かしていくべきだと思います。

そのいろいろ散見される問題を解く一つの鍵となってくるような、先ほど東委員からコネクテッドというキーワードも出ていましたけれども、分散しているいろんなものを、どういうふうにつなげて、存在する、もしくは今後起こり得る問題を解くための基盤をつくるのかという視点が、もっと横断的に入ってもいいのかなというふうには感じました。

その観点は、いまは個別の施策が出ているだけで、それぞれが関係していそうなのに、関係させられるようなかたちになっていないというのも、そういうネットワーク。あと、都市をどういうふうにコンパクトに捉えるのかといった部分がないのも一つのポイントかなというふうに感じました。

○久会長

ありがとうございます。違う見方をすれば、2-3のところ、そういう方向性がちゃんと受け止められているかどうかということかと思えます。

○東委員

そういう意味では、どこに入れたらというところは、施策ナンバー5かもしれませんがけれども、全体に係るところで、データガバナンス系の話をどう入れるかと。おそらく一番大事なところでして。

加えて、この計画から、もうちょっと下位の計画に落としたときも、先ほどコメントが

ありましたけれども、5番の信頼の行政運営というところで、データトラストみたいな話は、いまあらゆるところでされていて、行政が市民のデータを、どうやって信頼を持って運用するかと。これは民間でできないところになっていて、行政、首長の役割だろうというところが世界共通になっています。

その中で、ちょっと参考になるのが、ちょうど先週ぐらいに、つくば市長がつくばスマートシティ倫理原則というのを出したんですけど、データのことかと思えば、まったく違っていて、まず1が自律の尊重、2が無危害、3が善行、4が正義という、倫理規範、行動規範みたいなものを枕に置いています。

やはりトラストをどうやって担保するかというところが行政の中で一番重要なテーマになりますので、そこは今回のG20のワールドワイド・データガバナンスのところで今年からスタートした 이슈ですから、10年たっても変わらないというところで、どこかに入れておいた方がいいかなとは思っています。

○久会長

34番の情報が、ちょっと書きぶりが古いということですかね。もう少し未来指向の書きぶりになってくると、東委員のご指摘も入ってくると思います。AI活用なんかは今後進んでいくわけですね。

ちょっと脱線話的になりますが、先週金曜日に富田林で会議をしたら、必ずマイクでしゃべってくれと言われるわけですね。なぜかというとなんかAIが議事録を起こしますので、マイクが入っていないと議事録に載らないということなんです。

実際に、もう書記さんを雇うのではなくてAIに議事録を取らせているというのが富田林市でしたので、こういうのがどんどん樫原市でも進んでくるはずですね。そこも含めて、情報化への対応というのをどのように受け取るか。それに適切な施策名を考えていただければと思います。

○前川委員

人口の問題が大きい課題になっているかと思うんですけど、やっぱりニューファミリーに住んでもらいやすいまちづくりというのと、先ほどから出ている、お母さんが住みやすいというのが、すごくあるかなと思うんです。

いま、この時代ですから、お母さんは子育てだけに専念するわけではなくて、就労者として働く場所がないと生活が成り立たないという現状かなと思いますので、お母さんが働きやすい環境づくりというの、子どもさんを育てるのが、すごくやりやすいというより、さらに就労しやすい、あるいは働きやすさとか利便性とか、そういうことも含めて考えていただいて。

その上に、さらに子育てしやすい環境づくりみたいなことを考えていく必要があるのではないかなと思うと、企業誘致みたいな部分は入っていなかったかなと思うんですね。大き

な企業さんに来ていただいて、安定した収入が得られて、安定した企業さんだと子育てしやすい環境というところにも配慮されていますので、そういう方向も一つ必要なのではないかなと思います。

○久会長

ありがとうございます。資料2-3では27番、5ページのところで一応「企業誘致を促進し」という言葉が出てはきますけれども、このあたりの内容ですよね。新名神高速道路が三田から高槻まで開通して、そこにたくさんの物流系の施設が出てきているのですが、その物流系で働ける方というのは子育て世代ではないわけですね。

ジョブローテーションで夜勤もありますし、例えば茨木の駅前を見ている外国人の方が半分以上お勤めだったり、必ずしも市民雇用には直接つながっていなかったりするので、そういう意味では企業誘致の内容を、もう一つ細かい話かもしれませんが、ちゃんとターゲットを見据えながら企業誘致をしていただく必要はあるのかなと思いました。

○佐伯委員

先ほど石川委員の方から、在宅医療とか終末期医療について、行政ができることはどんなことかというご提案があったんですけども、私が考えるに、終末期医療をきちんと提供する、あるいは介護保険制度が、介護が必要な高齢者をサポートするシステムがあると。

ただ、その実態としては、例えば自立といっても相対的なもので、自分で買い物に行って晩ご飯を準備できるかどうかというのは、歩いて10分以内に野菜を買いに行ける場所があればできるけれども、バスや電車に乗っていかないと買いに行けない場所では、その人は要介護状態になったりする。そうするとヘルパーさんを派遣して、その人の晩ご飯の準備を介護費を使ってすることになると。

これは、介護保険で賄っていたものを、できるだけ自立状態にするために、そういう日常の必需品の購入を歩いてできる、あるいは近所でできるような態勢を、完全に市場だけに任せずに何らかの施策で誘致するような工夫をするということはあると思うんです。

例えば交通の面でも、採算が取れない路線を、市がバスを回すことによってアクセスを確保するのとよく似た考え方だと思うんですけども、そういった考え方は、いったいこの施策の中のどこに反映するのかと。言ってみれば隙間に当てはまることだと思うんですけど。

僕が懸念するのは、解釈によっては、ここに含まれているから、もう書かなくていいというものにするのか。そうではなくて、ここに入っていますよと明言されていれば、ちゃんとそこが配慮したものだと理解できるんだと思うんですけども。

要は、複数の施策に重複する場合の扱いに、この項目としては入っているでいいのか、それとも目指す姿の中に書き加えるように置いておいてもらうのかといったところになるかもしれません。

○久会長

もう少し重点施策でつないでいくという考え方の中で、柱をどうするかという話ではあると思うんです。いわゆるスマートウェルネスシティという考え方を採れば、さまざまなものが健康づくりの中に入ってくるので、そういうキャッチフレーズみたいなものを柱として上げられれば非常に分かりやすくなるんですけど。

そういう最先端の取り組みを奈良県内で先導して樫原がやってくださることになれば、非常に分かりやすいということにはなってくるので、そこら辺をどういうかたちで出していけるのかというのは投げ掛けておきたいと思います。

私の方から、ちょっと言葉遣いが、先ほど言ったようにレベルも違うし、言い方が違うんですね。方向性が、ある程度見えているものもあるし、単なる分野の説明になっている部分もあるし。

例えば、33番は計画的な施設管理、35番は市民の期待に応える。これは方向性を示していますね。かと思うと、通常の方の名前になっているところもあるので、ここをどう整理していくのかというのも一つ、投げ掛けておきたいと思います。

それから、ちょっと言葉遣いが古いなというのがあるんですね。例えば環境衛生というのは、かつては言っていましたけど、いまはあまり環境衛生という言い方はしませんよね。もう少し広くくりにするのは生活環境ということで、環境衛生だけではない、さまざまなものを組み込んでいくという考え方もあります。

それから、汚水というのが突然ここに出てくるんですけども、下水道の方がおっしゃっているのだと思いますけれども、下水道は汚水対策、水をきれいにするという役割と治水というのがありますから、治水は、上に治水の推進があるんだったら、そちらの方に組み込んでしまう。それから汚水の部分は、先ほどの生活環境のところに組み込んでしまうというような書きぶりもできるのかなと思いますので、このあたりの言葉遣いも考えてほしい。

それから、飯田委員が先ほど言いましたけれども、24番の文化財の保存と活用、これは仮になっていますけれども、2-3を読ませていただくと、歴史・文化の承継という言葉があるんですね。歴史・文化の承継の方が、もっといろいろなことが見えてくるのではないかと思いますので、このあたりのネーミングというか、そこも磨き上げていただければありがたいと思いました。

あと、2-2のところのございますか。それでは2-3のところ、これはたくさんありますので今日だけではないと思いますが、いまの時点で、この2-3の書きぶりとか内容で気になっているところ、ご指摘いただけたところがありましたら、お出しいただければと思います。

○中澤委員

半分、質問なんですけれども、個々の話ではないんですが、2-3の目指す姿の複数入っているところ、上に青字でまとめてありますけれども、最終的に資料2-4のようなかたちでまとめたときの目指す姿というのは、この青字の部分だけが入るのでしょうか。それとも、一つの施策で目指す姿が幾つか書いてあるところもあるんですけれども、それは全部書かれるのか。そこあたりは、どうなのでしょう。

なぜかといいますと、ものによって、かなり細かいところまで目指す姿が書いてあるものと、一本で、ぼんとまとまっているような施策も結構ありまして、ちょっとばらばらだったので、どちらかなと思いました。

○事務局

複数書かれているものにつきましては、課が幾つもありまして、各課から提出いただいたものになります。青字の部分につきましては庁内案で、仮でつくらせていただいたものになっています。一つになっているものについては、課が一つなので、それをそのまま転記させていただいているというかたちになっています。

レイアウトの中で、どう表記されるかということですが、いまのところは一本化で考えているんですけれども、またヒアリングをさせていただく中で、複数を併記して書くようなかたちが考えられる場合もございます。横に書いてある方針につきましては、出させていただいたものを全て併記させていただく予定で考えているところでございます。

○久会長

そのあたりも、これからということでいいですか。

○土井委員

ちょっと細かい、具体的な話になるんですけれども、4の26の農業の振興というところで、よく使われる安全という言葉なんですけれども、安全性の高い農業というのが、どういうものを想定しているのか、まったく想像できないといいますか。具体的なものが施策方針の中にもないです。

非常によく使う言葉なんですけれども、実は具体性が非常に重要になってきますので、具体的に目指すものがあるのであれば、そういう言葉を使っていいかなと思うんですけれども、そうではないなら安易に使わない方がいいのかなと感じました。

それと、先ほど説明のところにあったんですけれども、言われたとおり、主語が非常にばらばらで、「まちが」とか「まちは」とか、その辺の統一性がないので、これから統一を取られると思うんですけれども、主体とか対象はどうなるかという後ろの述語との整合性が取れていないので、その辺をきっちり見直していただけたらいいかなと思いました。

○久会長

ありがとうございます。ちょうど5ページの26のところを見ていただいているので、ちょっと私の方から、この四つある、下の三つは、それぞれのところから出ているんですか。それとも、三つ同じ部から。

○事務局

それぞれの課から。

○久会長

それぞれの課から出てきているんですね。なぜ、それを質問させていただいたかというのと、この一番下ですね。農業の担い手があって、活力ある農業経営を行い、農地を集約、地域の農業が活性化する。これは農水省が言っていることを、そのまま書いているだけで、こういう施策を打ちたいということが書いてあるわけですね。

そうではなくて、農家から見たときに、これが、こういうようになりたいと書いていただいた方がいいかなと思うんですね。自分たちが何をやりたいというのが、たぶん、この4番目のところに書いてある文章になってしまっているんで、そうではなくて、それぞれの分野の10年後の姿。産業なら産業の姿、生活なら生活の姿が10年後、こうなるということを書いていただくようにすれば、目指す姿がそろってくるのかなと思います。

安全性というのは、おそらく農作物の安全性ですよ。だから、農業に安全性があるのではなくて、生産したものの安全性の話かなと私は理解したんですけれども。このあたりは、また整理をしていただければと思います。

他はいかがでしょうか。どうぞ。

○清水委員

3の16番、治水のところ、河川の維持管理や下排水路の整備を進めますと書いてあるんですけど、これは何も言っていないのと同じことですよ、きっと。たぶん、それ以外のことをすることもなくて。

例えば、どういう観点で、これをするかとか、どういうことを目指してやるかとか、そういうことがないと、こういう感じで、やります、やりますだけでいいのかどうかというのは、ちょっと。これは例に出させてもらっただけなんですけど、他にも、そういう目で見直していただいた方がいいのではないかと思います。

○久会長

ありがとうございます。先ほどの飯田委員のご指摘とも関わってくると思うんですけれども、これは、いわゆる河川・水路を管理されている方が、これをしますと書いていたけれども、先ほどの下水道を、今回の事例でも、やっぱり内水氾濫でたくさんやられている。これは、たぶん下水の容量が弱いからというところがありますよね。

さらに、いままでは住んでいなかったところに家ができてしまったが故の浸水被害というのものもあるわけですね。そういう意味で言うと、地上も含めた総合治水を考えていかないといけない時代に入ったのですが、この書きぶりが、まだまだ従来型の、自分たちで水を早くはいてしまえば治水は達成できるというような書きぶりになってしまっているのも、全ての項目にわたって未来志向の施策内容にさせていただくと、もう少し、このあたりの文章も変わってくるのかなと思います。

他はいかがでしょうか。

○石川委員

施策ナンバー32番、健全な財政運営の施策方針の中で、多様な財源の確保と書かれているのですが、これはまた各論でいろいろな施策を挙げられるのですか。非常に抽象的なもので、具体的にどういうふうに、担当課というか担当部の方は財源の確保をどうしていくのかというのを考えておられて、ここに出されているとは思いますが、多様なというのが非常に抽象的なもので。

それと関連して、まちがふるさと納税をしていただいたうんぬんというのがあるんですが、ふるさと納税も財源の一部に入りますけれども、もう少し突っ込んで、世に言うクラウドファンディングみたいな。市役所がやってはいかんということはないと思うんですが、一つの目的、施策を、これをやりたいというのが、ちゃんと前面に出れば、賛同した市民は、そこにお金を入れるのではないかと。単純にですよ。あるいは企業とかいうのは入れるのではないかなと思うんですけれども。

この多様なというのに、例えば、そういうふうな方法を考えておられるのかどうかというは、これだけでは、ちょっと分からないので。ただ単に受益者負担で、そういうものをあげますよというものであったり、あるいは他の、例えば観光税であったり、そういう他の税を確保するように考えますよというのであるのか。そういうのも含まれているとは思いますが。

少子化になりますので当然のことながら税金も減っていくわけですから、ある市では歳出を抑えましょうと、5年か6年の間に10億円減らしますとか言って。生駒市でしたかね、そういう話もされていますけれども。

そうではなしに僕は、どんどん投資していったらいいと思うんです。将来の10年と先ほど会長がおっしゃったんですけれども、10年後の檜原をどういうふうにするのかということですから、ある程度の投資をしていく必要性はあるのかなと思います。そういう観点から、この多様な財源の確保というのは非常に重要であるのかなとは思いますが、この辺はどうかと、ちょっと疑問が感じられます。

○久会長

ありがとうございます。おそらく、この資料2-4が一番のイメージしやすいところだ

と思うんですけれども、先ほどご指摘いただいたのは、施策方針のレベルですね。今回は、この左の目指す姿を一定、皆さんのご意見を賜りながら整理したいということになると思うのですが、今後の審議会で全体を見ていただいて、この施策方針も、さまざまなご意見を賜れる機会があるのかなと思いますので、また、そのあたりで、この多様とはどういうことなのかと突っ込んでいただくと、具体的に教えていただくことも可能かなとは思いますが。

いまのところ何かお答えはありますか。多様な財源とか。

○事務局

施策の内容が、かなり抽象的というご指摘をいただいていると思うんですけれども、檀原市の第4次総合計画のつくりとしまして、第3次総合計画を引き続き、3層構造というところで想定させていただいております。

いま議論いただいているところが、真ん中の基本計画という部分になりまして、実際に具体的な取り組みというところを、最下層になります事務事業というレベルで挙げさせていただくように想定しておりますので、現在、この基本計画の部分については抽象的なつくりというかたちで想定させていただいております。

○久会長

実態があればいいのということだと思うんです。生駒市で総合計画を策定させていただいたときに、至るところで「多様なライフスタイルに対応した」という文章がありましたので、これからどんどんライフスタイルが多様化していくことを想定して書かれていると思うんです。

私は、その審議会の中で「じゃあ、新たなライフスタイルって、どんなことを想定していますか。三つ言ってください」という話をしたんです。答えは返ってこないんですね。つまり、多様なライフスタイルと書いているだけでイメージできていない。イメージできていなかったら、具体的にその対応策は取れないと思うんです。

そのあたりは、ある意味、確認を取らせていただいたらいいところも出てくると思うんです。全部網羅しなくてもいいんですけど、「例えば、こういうことです」という答えがあれば、なるほど、考えているのかなとって審議会の委員は安心できる。こういうストーリーだと思います。

他はいかがでしょうか。

○桐山委員

施策方針のことは、また次回にというお話でしたが、すみません、いま言わせていただいていたでしょうか。1ページ、柱の1番、例えば保育・幼児教育の充実、施策名、施策方針が右端に三つあります。次に、施策4番目の妊娠期から子育て期までの支援の充実の

施策方針が、保育・幼児教育の充実と同じ方針になっているように思うのですが。

妊娠期から子育て期の世代の支援は、例えば待機児童の解消、もちろんこれも必要ですが、けれども、教育・保育施設をつくるとか、健やかに子どもが成長できる環境をつくるとか、生きる力を育む学校をつくること支援ということだけにとってしまうのですが。先ほどから出ていますように、子育て世代が就労していくところの方針というのがないのかなと。ちょっと読み取り不足か分かりませんが。

○久会長

いまのところは、ないという判断かと思うんですね。それと、この二つに重なっているのいいのかどうかということも。はい、どうぞ。

○事務局

申し訳ございません。施策1と4の施策方針に、まったく同じ内容が入ってまして、こちらの間違いですので、また正式なものをお送りさせていただきます。誠に申し訳ございません。

○久会長

ありがとうございます。これも、先ほどから申し上げているように各施策が、最新の情報も収集していただいて、どちらの方向を向いて進めていこうとされているのかということところが明解に出てくると、この施策方針、あるいは、それを受ける目指す姿が引き締まったものになってくると思うんです。そこを従来型でやってしまうと、ぼやけてしまうので、もう少ししっかりと、各担当の方にも直していただければと思います。

私も、子育て支援もやっておりますので、4番に関わる一つの柱は、やっぱり切れ目ない支援なんですね。妊娠期、出産期、それから子育て期。それぞれが、いままではぶつ切りだったんです。それが切れ目ない、トータルな支援ができる。

あるところでは、一人の保健師さんが妊娠期から子育て期まで全て対応していただくということで、その方が全てのステージでつないでいただいているような体制を取るとか、あるいはワンストップサービスをするということですね。妊娠の窓口、出産の窓口、それから子育ての窓口。それを一本化してワンストップサービスに切り替えていくとか。

そのような、どちらの方向を向いているかということころを、ここでしっかりと見据えていけば、この施策方針も、目指す姿も見えてくると思いますので、ここに限らず全て、もう一度、そういうフィルタリングで見直していただければいいのかなと思います。

あと、いかがでしょうか。時間的にも、ちょうど2時間になりましたので、まだまだ、これから庁内でも検討を進めていただくということですので、また一定、見えた段階で議論の俎上に載せていただければと思います。

それでは、これで本日の議事は全て終了させていただきました。スムーズな進行にご協

力いただきましてありがとうございました。

次回は12月5日（木）午後1時30分から本と同じ会場で開催予定。

3. 閉会

以上